**中学生の部 ：　警視庁給与厚生課長賞**

**人とつながる「命」**

いわき市立中央台南中学校２年 　武藤 桃香

 「命」聞き慣れてしまっていて、この言葉と正面から向き合うことは、数少ないでしょう。私は、「命の大切さを学ぶ授業」を受けて「命」に対する考え方を振り返ることができました。

私が幼かった頃に、大切な人の死に直面したことがあります。それは今でも深く胸に刻み残され、忘れることのできない事となっています。突然の死で幼い私には理解ができず、ただ泣くことしかできなかったことを覚えています。ぽっかりと開いた穴を修復しようと、何度も考え込んでしまい、一生分の涙を流したと言っても過言ではないでしょう。

「もし、今も生きていたら」と考えるだけで胸がしめつけられる思いです。そんな経験をした私には、講師の先生の悲しみが、よく分かり、熱い思いが伝わってきました。

 私は、「命の大切さを学ぶ授業」を受けて改めて気づかされたことが二つあります。

 一つ目は、「かけがえのない命をどう生きていくか」ということです。誰しも、「死」を迎えることは必ずあります。その日まで、数えきれないほどの「人」とも出会います。ということは、自分自身の「死」は、多くの人を悲しませ、自分だけで自己解決ができるような軽いものではないということです。ですから、一日一日を生きることに、幸せや楽しみを感じながら、悔いの残らないように強く生きていこうと思いました。そう考えると「死にたい」という言葉は、私には、必要ありません。

 二つ目は、「命を軽々しい思いで考えてはいけない」ということです。大切だと思っていても、どう向き合うかで、相手の命や自分の命の捉え方が変わってきます。命への考え方の芯の強さが講師の先生から伝わってきて心打たれる場面が多々ありました。命と向き合った私は、軽々しく考えることは決してありません。

 私は、この授業で「命」とは何か考えさせられ、生きていくことの素晴らしさを学びました。講師の先生に感謝し、これからの人生を、たくましく生きていきたいです。

 その後、私は、二学年の学校行事の職場体験で警察署へ行きました。父の姿を見ていたため、とても関心のあるお仕事で、たくさん勉強になったことがありました。その中で一番、胸に焼きついた言葉があります。それは、「人の命を救ったときが、やりがいを感じる」とおっしゃった言葉です。このことから、命を真剣に考えている方だからこそ、言えるものだと思いました。命と関わっているお仕事でもあり、本気で立ち向かっている素敵な方からお話を聞けました。

 「命」。この重さを、自分自身で理解して毎日を大切に生きていきたいです。